キャラクター名: 道寸響子（とうき　きょうこ）

プレイヤー名:

シンドローム	ハヌマーン ハヌマーン	ワークス	暗殺者	カヴァー	シスター
オプショナル		年齢	26	性別	女
覚醒	渇望	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	貧乏	経験	伝説	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	2	1	0			3
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	26
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志			調達		
運転:バイク	2		芸術：			知識:殺人術	2		情報:裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
《羊飼いの嘆きの歌》シェイパードクラーゲリド	ＲＣ	2r				2dx@10+0 d10+9
123	ＲＣ	9r+9				9dx@10+9 d10+9
123(100～)	ＲＣ	10r+12				10dx@10+12 d10+12

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：裏社会	
コネ：傭兵	
解毒剤	
ロザリオのようなもの	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Ｄ：戦闘用人格	P	N		
イッスイ	P 好奇心	N 不信感		
師匠	P 尊敬	N 憐憫		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
サイレンの魔女	3	5	ﾒｼﾞｬｰ	視界	ｼｰﾝ選択	ＲＣ	-	
効果：	攻撃力+[LV*3] 装甲無視　ｺﾝﾄ不可							
アースシェイカー	3	2	ﾒｼﾞｬｰ	視界	-	ＲＣ	-	
効果：	命中でダイス-LV個							
疾風迅雷	2	3	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	ｼﾝﾄﾞ	ﾋﾟｭｱ	
効果：	ドッジ不可　1シナリオＬＶ回							
援護の風	7	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	-	
効果：	ダイス＋ＬＶ個　1ラウンド1回							
ウィンドブレス	3	2	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：	援護の風使用の判定達成値+[LV*3]							
限界突破	2	3	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	自身	自動	80	
効果：	援護の風を1ラウンド2回まで　1シナリオＬＶ回							
蝙蝠の耳	★							
効果：	聴覚領域拡大							
真偽感知	★							
効果：	声色から嘘を見抜く							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

街はずれの教会に住んでいるシスター。祈りをささげ、迷える子羊たちの懺悔を優しく聞いている。
「どうしましたの？迷える子羊さん。何か、わたくしにお手伝いできることはあるでしょうか」

本業は殺し屋で、懺悔に来た人々に交じって殺しの依頼がしばしば舞い込んでくる。
生まれは貧しい国で、物心ついたときから少年兵として戦争に参加していた。殺しのセンスは荒々しいながらもずば抜けており、少年兵という立場を超えて殺しを仕事として生きていくようになった。しかし、ある依頼主に嘘をつかれはめられ、生死の境を彷徨う。その時目の前に現れたある男から投げられた「生きたいか」という問いかけで生を渇望し、その思いの強さからオーヴァードに覚醒した。
『神父』を名乗るその男に力の使い方を教わり、技術を磨きながら、教会を隠れ蓑に殺し屋として再び生き始めた。
彼と暮らし始めて丁度6年目になる日、卒業試験という名目で神父と殺し合い、勝利し、独り立ちした。

オーヴァードとして力の使い方を教わる過程で、がむしゃらに殺しに行くのではなく冷静さや相手をよく見て話を聞くことも大切であると神父から学んだ。今の殺しのときのスタイルはそちらだが、嘘を付く人間が大嫌いなため嘘を付かれると冷静さを欠いてしまう。

「お前、私に嘘を付いたな？あーあ、かわいそうに。羊は羊らしく丸まって、静かにしてりゃあよかったのに。バイバイ、畜生らしく惨めに死にな」
そもそもシスターは教会に住まないし懺悔も聞かないのであるということで